

聖せい隷れい よこはま

www.seirei.or.jp/yokohama/



こあいさつ 年頭所感

NEWS 「かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞

NEWS 最優秀医師・看護職員・部門賞のご紹介

診療科紹介 循環器内科の外来で行う検査について

看護部だより 女性に優しく寄り添って/安全・安心な手術の提供を

ご存知ですか? 非常時の食事提供について

1

2

3

4

5

7

No.95
2012.1.1



私たちは、隣人愛の精神のもと、
安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます



2012年 新年のご挨拶

病院長 岩崎 滋樹

明けましておめでとうございます。
2003年の開院以来9回目の新春
を迎えることができました。あらた
めてご利用者の皆様、職員の方々に
御礼申し上げます。



昨年は、3月11日の大震災以来、ライフラインの重要性と人員確保ならびに設備機能維持を含めた震災時、災害時、停電時における病院危機管理について大変考えさせられた年でした。いざというときには必要になる「病院機能維持」とそれに伴う「救急受入維持」が地域の安全保障に役立つことが確かであり、病院としては、災害元年として取り組んできました。また、電力確保、節電対策では、利用者の皆様と職員の協力により、前年を大幅に上回る節電結果が得られ、皆様方の危機管理意識の高さを実感できました。更に検討し、安心安全の医療が提供できるように精度を上げていきたいと考えています。

当院は、以前より患者さんにやさしく、職員にやさしい病院の両立を目指し、努力してまいりましたが、昨年「にっけい子育て支援大賞」「かながわ子ども子育て支援大賞」両賞を受賞し、この面では全国区の病院として知られるようになりました。また、診療面では、かねてより「横浜市救急拠点病院」に認定されておりましたが、昨年4月に救急科（常勤医師3名）を立ち上げ、救急受入を増すことができました。これからも医療の質の向上と利用者によ



さしい病院を目指してまだまだ努力してまいります。

さて、本年は更に診療機能の充実を図っていきます。ひとつは、初診や急患者の受入改善と待ち時間対策を兼ねて、総合診療内科の改変や外来機能の拡充を目指します。特に、糖尿病の急増を受け、外来受入能力の改善をします。また、消化器疾患の増加を考慮し、消化器内科医師の大幅増員を行い、外来拡充ならびに胃カメラや大腸ファイバーの受入増をしっかりとしていきます。

当院は、地域における急性期中核病院として、更に地域医療に貢献できる病院にしていきますので、今年もご支援よろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとって希望に満ちた明るい年となるように心から祈念して新年のご挨拶といたします。

「かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞



かながわ子ども子育て支援大賞 表彰状

総合企画室
伊藤 公隆

当院は、2010年「につけい子育て支援大賞」に引き続き、第5回「かながわ子ども・子育て支援大賞」を受賞しました。この賞は、神奈川県子ども・子育て支援推進条例に基づいて神奈川県民総ぐるみで子ども・子育てを支援する風土の醸成と自主的な支援活動の活性化を図るため、県内のモデルとなる活動を対象に表彰します。

今回、数多くの事業所や団体の中から、当院における医師ジョブシェアリング制度や看護師ワークシェアリング制度、院内保育、24時間保育などのさまざまな取り組みが、子育て支援へのリーディングホスピタルとして広く県内への波及効果が期待できるという点が評価され、県知事表彰を受けることができました。

病院長より、「当院は、これから地域に選ばれる病院でありつづけられるよう精進していきたい」との抱負が述べられました。



聖隷横浜病院は、第5回「かながわ子ども・子育て支援大賞」を受賞し、2011年10月28日に表彰を受けました。

前列 右から3番目 岩崎病院長

最優秀医師賞・最優秀看護職員賞・最優秀部門賞のご紹介

この賞は2011年に当院で最も優秀な取り組みを行った職員や職場を対象に表彰します。今回は最優秀医師賞に救急科部長山口裕之医師、最優秀看護職員賞に看護管理室看護課長山下信子看護師、最優秀部門賞にリハビリテーション室が選ばれました。受賞者の皆さんに2011年に行った取り組みや受賞しての感想を伺いました。

最優秀医師賞

「救急医という仕事」
救急科部長 山口 裕之

救急医療は医師の間ではきつく責任を問われることも多いため、敬遠されがちです。一方、医療の根幹をなすものの一つであることは衆目一致したところです。「救急医療は臨床医療の基本」なのです。臨床医という仕事を選択した以上緊急事態は避けて通れません。しかし、緊急事態を受け入れませんと言ってはばからない医療機関なども現実には存在しています。また、全てを救命センターで受け入れることもできません。患者さんに起こっている様々な問題をあぶりだし、この病院でできることを地道に行っていく必要があると思います。もし、この病院でできない治療があれば、速やかにできる施設に搬送しなければなりません。仕事をす

上でどうしても華やかで柔なところに見が行きがちですが、普遍的な価値を日常の仕事の中に見出していこうと考えています。

学問として救急医学は新しく(国公立大学の講座の中には教授が初代であったり、あるいは講座があっても教授自体が就任していない大学もあります)柔軟でかつ色々な分野を横断する学問です。今後、当院で研修した医師から救急医学に興味を持つ新しい人材を養成できるように色々と切磋琢磨していきたいと考えています。

最優秀看護職員賞

「看護部人材確保・定着担当の活動」
看護管理室看護課長 山下 信子

昨年4月より私の職場が病棟から変わりました。事務棟総務課内に机を置き、就職希望の方への案内や新卒者向

けの合同就職説明会、看護学校での就職説明会に出掛けています。

就職問い合わせの電話には募集状況を説明し、一度来院をしていただく案内をしています。当院の説明は直接会って話をし、質問してもらうことで理解を深め、実際に院内の見学をしてから就職を考えていただいています。

学生の方には、当院の特徴や看護部の方針、新人教育プログラムの概要等をわかりやすく伝え、当院に少しでも興味を持ってもらうようにしています。そして、実際の病院見学に来院していただき、さらにインターンシップ体験に進むように案内をしています。看護の実際を体験することは、説明だけよりも、より病院を知ってもらう機会になり、自分に合う病院かの見極めになるからです。

当院のことを少しでも多くの人に知ってもらい、「当院で働きたい」と思う方々にぜひ就職していただきたいと思っています。

当院に興味をお持ちの方はいつでもお問い合わせください。一緒に働きましょう！

最優秀部門賞

「最優秀部門賞を受賞して」
リハビリテーション室室長 阿部 夏織

2003年の開設以来、恐らくたいした存在感もないリハビリテーション室でした。これまで自分たちが地道にやってきたことに対して、今回このように評価していただき、「あっ、見てくれる人たちがいてくれた」と嬉しく思っています。

現在、理学療法士3名、作業療法士1名、助手1名という非常に少人数で、全病棟の対象となる患者さんを担当しています。おかげさまで、年々リハビリテーションの認知度やニーズが高まり、たくさんのお患者さんにリハビリテーションを行っています。

今後、より安全で質の高いリハビリテーションを皆さまに提供できるよう努力していきます。また、「あっ、見てくれる人たちがいてくれた」という評価を期待するのではなく、自ら存在感を示していけるよう行動していきたいと思っています。

循環器内科の外来で行う検査について

循環器内科部長

内田 英一

循環器内科の外来では、一般的な内科とは違った専門検査を行うことが多いです。特に、開業医の先生からの紹介で来た患者さんや初診の患者さんは戸惑うことも多いと思いますので、簡単に紹介させていただきます。

多くの場合、初診時に心電図と胸部レントゲン撮影を行います。心電図は、心臓疾患で変化することが多くみられ、その変化を捉えることで正しい診断に至るケースが多々あります。そのため、症状があるときだけでなく、全く症状がないときの心電図も大きな意味があります。また、紹介先からお借りした心電図と当院で行った心電図が大きく変化していた場合には、緊急入院が必要になるケースもありますので、何回も繰り返し行う必要があります。胸部レントゲン写真は、心臓の大きさや肺うっ血の状態、肺にたまった水などの有無を確認するために行います。また、肺疾患の有無についても調べることができません。当院ではフィルムレス（レントゲン写真などの画像をパソコンで

閲覧し、フィルムにプリントしない）システムを導入しており、近隣医療機関からお借りしたレントゲンフィルムがあっても、当院での診断を行うために再度、胸部レントゲン写真をお願いします。ケースがあります。

● 診察の後、必要に応じて次に紹介する専門検査を行います。

● ホルター心電図

先ほど心電図は変化することがあると言いましたが、24時間記録して心電図の変化を捉えることを目的としたこの検査は、不整脈発作や冠動脈狭窄を診断する目的で行います。小さな箱状の装置を携帯していただき、翌日に回収して解析します。基本的に自由に過ごしていただいても良いのですが、防水タイプではないため水泳や入浴は控えていただきます。同じような検査に24時間血圧測定検査があり、こちらも自由に行動していただいた状態で30分ごとに血圧を測定し、一日の血圧の変化を記録し、最適な治療に役立てます。

● トレッドミル運動負荷心電図

この検査は、運動時の心電図の変化を捉える目的で行います。傾斜角

度と速度が変化するベルトコンベアーの上を歩行して、心臓に運動による負荷をかけた状態での心電図の変化を監視し続け、狭心症・不整脈発作の有無や運動耐用量を評価します。

● 心臓CT検査

この検査は、心臓を栄養する冠動脈の動脈硬化性変化の状態を評価して、心臓の血管が狭窄をおこす病気である虚血性心疾患の診断に使用します。当院では、2006年に64列マルチスライスCTを導入し、冠動脈の評価に役立てていますが、2010年には256列マルチスライスCTを導入しています。多列化により冠動脈をさらに鮮明に描出できるようになりました。さらに、検査時間の短縮や被曝放射線量の大幅な減少といった、検査を受けられる方にとっても大きなメリットがあります。この検査で虚血性心疾患が疑われた場合は、入院のうえ心臓カテーテル検査による冠動脈造影検査にて最終的な診断を行う必要があります。

● 心臓超音波検査

この検査は、動いている心臓をリ

アルタイムに観察します。心臓の大きさや形態、各構造物（心筋や心臓弁膜）の状態、また、心臓内を流れる血流などを評価します。基本的には超音波室で行いますが、先日、最新型の超小型超音波診断装置（Vscan）を導入し、外来診察室で超音波診断ができるようになりました。この装置により聴診器とほぼ同じ感覚で心臓の状態を確認することが可能です。ただし、本格的な計測などは超音波室での検査には及びませんので、本当の意味での精査は予約をしようえで超音波室で行います。



超小型超音波診断装置（Vscan）

東4病棟紹介 「女性に優しく寄り添って」



東4病棟 スタッフ

東4病棟
酒井 きくえ

産婦人科・小児科・女性一般病棟

生まれたばかりの赤ちゃんから幅広い・・・赤ちゃんの声が絶えず聞こえ「今日も元気に頑張ろう」とパワーをもらえる病棟です。病院の最上階に病棟があり、天気の良い澄んだ日には満点の富士山を拝むことができます。

看護師・助産師・看護助手・病棟事務・医師の総勢32名が働いています。それぞれの役割の中で、患者さんの持つ力を引き出し、チーム一丸となって取り組んでいます。

女性の人生での大イベント「出産」!!

助産師達は、妊娠期から外来や母親学級を通し関わらせていただき、妊婦さんの想いを聴き、少しでも想いに添った妊娠・出産・子育てへのお手伝いのできたらと考えています。母子と

もに安心して療養できる看護を目指しています。

当院は、母児同室で24時間赤ちゃんとともに同じ部屋で療養生活を送っていただいています。パパ・ママに育児が「楽しい」と思えるように、その場その時々においてサポートをしています。退院後も、電話訪問・母乳支援室にてフォローアップできる体制があります。今年は待望の聖隷横浜病院独自のマタニティテキスト「HUG・HUG（ハグ・ハグ）」が完成し、皆さんのお手元に届く日がやってきます。詳しくは、産科外来にお問い合わせてください。



当院オリジナル
マタニティテキスト
「HUG・HUG」

手術室・中央材料室紹介 安全・安心な手術の提供を



中央材料室スタッフ



手術室スタッフ

手術室・中央材料室 秋山 典子

手術室はどのようなところですか

手術室は病院の3階にあります。「手術室」と書いてある扉を開けると「ホール」とその先に「ナースステーション」があります。「ホール」では、手術を行う患者さんの名前、生年月日、どのような手術を受けられるのか、どの臓器の手術なのか、左右どちらの手術なのかなどを確認しています。これは、患者さんの間違いや手術する部位の間違いを防ぐための大切な確認ですので、患者さんと共にを行っています。「ナースステーション」では、スタッフがミーティングを行ったり、手術の予定を立てたりしています。

手術室の中には、4つの部屋があり、それぞれの部屋で手術ができるようになっています。手術室の中は、塵や埃が入らないように室内の圧力と気流が

保たれています。そして、室内の清浄度を保つために、手術室で働くスタッフは専用のユニフォーム、帽子、マスクを着用しています。

手術室ではどのようなスタッフが働いていますか

手術室では、手術をする担当医師、麻酔を担当する麻酔科医師、手術室看護師、手術に使用する医療機器を管理している臨床工学技士、使用した器械の処理や使用する器械の準備、いろいろな物品の管理をする中央材料室職員などのさまざまな専門スタッフが働いています。

手術室看護師はどのような仕事をしていますか

手術室看護師は、①手術内容を理解し、たうで手術に必要な器械や器具を準備し、手術をする医師に正確に手渡しをする器械出しの看護師と、②手術室の準備、手術の進行状況の把握、患者さんの観察、担当医師・麻酔科医師との

連携など、行われている手術の全体を見ながら調整をする外回り看護師、という役割に分かれて手術に対応しています。

また、手術室看護師は手術前に患者さんのところへ訪問し、手術室の構造や環境、手術が開始されるまでの状況や麻酔を受けるためのお話などをさせていただきます。患者さんの手術への不安や緊張を少しでも軽減できるように努めています。手術が終わった後も、手術中のケアや手術後の経過の確認のために訪問させていただきます。

最後に、いつも心掛けていることはありますか

私たち手術室スタッフは、手術という緊張した環境の中で、それぞれが真剣にプロとしてのプライドを持ち、みんなが協力し合って、患者さんに安全な手術を安心して受けていただけるよう常に心掛けています!!

ご存知ですか？

非常時の食事提供について

栄養課
管理栄養士 石野 智子



真空パックされた食材



真空低温調理法で調理された入院食
・和風ハンバーグ
・芋玉葱煮
・フルーツポンチ

昨年は、東日本大震災や9月21日に台風15号が首都圏に接近したことで、皆さまの日常生活にも大きな影響があったのではないのでしょうか。当院においては、幸い断水や長期停電はなく、通常メニューを入院患者さんに提供することができました。しかし、災害はいつ起きるか予測できません。やはり日頃の備えが肝心です。そこで今回は、当院での非常時の食事提供についてご紹介します。

非常食について

栄養課では防災委員会と連携して非常食や簡易食器を備えています。非常食の内容は、保存性を重視しながらも美味しさや食べやすさなどを考慮して選定しています。

日本人の好きな料理ランキングでは、第一位「寿司」、第二位「刺身」、第三位「ラーメン」となっています。しかし、寿司や刺身は保存が効かないし、カップラーメンも意外と賞味期限が短く、大量のお湯が必要なため非常食としては不向きです。そこで登場する料理がカレーです。カレーは第七位にランキングしており、レトルトカレーは長期保存が可能です。個食パックにすることで衛生的に提供することもできます。カレーの他には、アルファ米、けんちん汁、カロリーメイト、たんぱく付加ゼリー、ビタミンミネラル強化ジュースなどを非常食として備えています。アルファ米は、水またはお湯を加えるだけでご飯になります。ゼリーやジュースは通常メニューとしても提供しており、美味しさは保証付きです。1食あたり400キロカロリー程度でメニューを構成しています。

真空低温調理法について

栄養課では通常の調理法として「真空低温調理法」を導入しています。真空低温調理法とは、食材と調味液を専用フィルム袋に入れて真空パックし、温度調整のできる調理器で加熱調理する方法です。この調理法は、肉・魚・野菜・フルーツなど、それぞれの食材の適性温度帯（60～98℃）で加熱するため、食材の風味や旨味を逃さずに調理することが可能です。さらに保存は、チルド（水冷0～3℃）で5日間、冷凍なら1カ月間可能です。この特徴を生かし、栄養課では入院食を前日に調理しています。翌日に提供するメニューは前日にはほぼ調理済みなのです。

災害時、救援物資到着までには3日くらいかかると言われています。そのため、当院では約3日分の非常食が備えられています。さらに、真空低温調理法で調理された料理がプラス1日分提供できるので、備えとしては万全です！また、関連施設である横浜工場の園や聖隷藤沢ワエルフェアタウン、油壺工場の園なども連携をとり、いざという時には協力し合える体制を整えています。これからも栄養課では、入院患者さんの食事提供に支障をきたさないよう努めていきたいと思っています。



倉庫にある非常食（約3日分）

